

令和7年度 運営に関する計画

**大阪市立五条小学校
令和7年4月**

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の地域・保護者の教育に対する意識は大変高く、多くの児童が何らかの習い事に通っているということもあり、全国学力・学習状況調査等の学力調査においては、常に全国平均を上回っている。しかし、平均を大きく下回っている児童も数多く存在するなど、学力の二極化が顕著である。また、知識量が豊富な児童が多いにも関わらず、その知識を活用し表現する活動に対しては、学齢が上がるにしたがって苦手意識が強くなる傾向がある。

一方、この十数年で児童数が 1.5 倍増加しており、急激な児童数の増加の影響で、数年間学校内に空き教室といった余剰がなく、学校生活を送る上での環境は決して恵まれていない状態である。令和3年度に西校舎が完成したことでの若干改善はされたが、通常学級が 28 学級あるので、講堂をはじめ、特別教室の配当時間は各学級週 1 時間しかない。運動場に関しても、体育学習時は複数学級での使用、休み時間時は学年毎の使用にするなど、のびのびと活動させることができ非常に難しく、結果、体力・運動能力調査の数値は十分とはいえない。互いに十分な距離を取ることができず心身の摩擦が強くなり、ちがいを認めることができ難しかったり相手の立場に立つことが苦手だったりする児童が多いことから、攻撃的な言動が飛びかい、大きなトラブルとなることが少なくない。一人ひとりを鑑みると「自分にはいいところがある」「将来に夢がある」「人の役に立ちたい」と思っている児童は大阪市の平均を大きく上回っているが、「学校生活の充実」という点については受け身であるという傾向が見られる。「楽しませてもらう」から「自ら楽しい集団にする」という意欲を引き出し、よりよい集団を作っていくことが今後の課題である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

・基本的な方向2 豊かな心の育成

○令和7年度の校内調査の「友だち一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率 5割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より 3 ポイント減少させる。

○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

・基本的な方向 5 健やかな体の育成

○令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 70% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

・基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

○令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業で学習用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90% 以上にする。

・基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業中は 3 日以上、冬季休業中以外の休業期間においては 1 日以上設定する。

○令和 7 年度末の教職員アンケートの「校内研修を充実させるために、主体的に行動したか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を 10 ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。
- 校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を93%以上にする。
- 「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立五条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。また肯定的に回答する児童を95%以上とする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会や生活指導部会等を通して、日々の子どもたちの様子についての共通理解をより深め、情報を共有し、それに応じた教育活動を進め、児童が安心・安全に過ごすことができる環境体制を整える。 「いじめを考える日」をはじめとして、人権教育部とも連携を図り、「いじめを絶対に許さない」を共通認識のもと児童が安心して通える環境づくりに努める。 児童会活動等さまざまな取り組みを、児童中心に進めていく。学校や子どもたちの実態にあった取り組みを検討した上で、さらに異学年交流等を増やす。上級生を中心に、学校全体で取り組むことで、より主体的に学校行事にかかわり、自ら楽しい集団にする態度を育てる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導連絡会等にあげられた課題を全体で共有し、解決につなげるための部会を原則月1回以上実践する。 1学期の「いじめについて考える日」をはじめ、人権教育部との連携を図り、「いじめ」について、児童とともに考える場を年間1回以上設ける。 色別集会、五条まつり、卒業おめでとう集会など、昨年度の取り組みを見直しながら実施する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校内の人権課題に向かって、人権集会を基軸として、児童の実態に応じた人権教育を進めていく。月1回の人権教育部会で実態や取り組みについて共有したり、人権教育の授業準備を進めたりするなかで教員自身の人権感覚も養っていくことで、自他共によさを認め合える児童の育成に努めていく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回（年3回）の人権集会を計画的に行う。 校内調査で「がんばった時、先生はほめてくれる」という項目について肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立五条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を45%以上にする。また肯定的に答える児童の割合も含めると85%以上にする。</p> <p>○令和7年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。また肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。</p> <p>○校内調査の「けがや病気に気を付けて、学校生活を送ることができている」という項目について、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。</p> <p>○「食に関する指導」の事後のアンケートにおいて「バランスよく食べようとしている」という項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、国語科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図る。 児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような授業を構築できるよう、研究部会や指導案検討会を計画的に実施し、国語科の学習指導案の検討を行う。 各教科において、単元や題材に即したペアやグループでの話し合いや学習したことを振り返る活動を取り入れることで、児童が興味や関心をもって学習に取り組めるようにする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した国語科の授業研究・討議会を各学年で年1回以上実施する。 研究部会・指導案検討会を年間に6回以上実施する。 対象教員による1人1回の公開授業を2学期末までに実施する。 GNP研修を中心に校内研修を年間10回以上実施し、教員の指導力向上を図る。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】(体育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の体力・運動能力の向上を目指し、狭い校庭でも子どもたちが十分に体を動かすことができる活動を模索し、運動量確保、技術の習得に努めていく。 子どもたちがより多様な種目に取り組めるよう、体育の学習の年間指導計画をもとに、計画的に授業を実施し、運動の楽しさを伝えるように努めていく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育カードを各学期1枚児童に配布する。 各学年、年間2単元以上ICT機器を活用した授業を行う。 ICTの活用方法の共有など、教員に向けた体育研修会を年に3回以上実施する。 各学年の年間指導計画をもとに、見通しをもって授業を行う。 	
<p>取組内容③【基本的な方向4 健やかな体の育成】(保健)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故やけがが起きる要因を理解し、安全に学校生活を過ごすことができるようになる。 自分の身体に关心を持ち、けがや病気を予防するための基本的な生活習慣を発達段階に応じて身につけることができるようになる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に1回、学校保健委員会を開催する。 	

- ・健康委員会児童による「けがなくし隊」が校内を巡回して声掛けを実施したり、放送やポスターを作成したりして校内安全の啓発活動を実施する。
- ・年に2回以上、「健康週間」を実施する。
- ・毎月ほけんだよりを配布して、児童だけでなく保護者へもけがや病気の予防について啓発する。

取組内容④【基本的な方向4 健やかな体の育成】(給食)

- ・食や健康への関心を持ち、バランスよく食べようとする食習慣を身につけることができる。
- ・食べ物の3つの働きとそのグループの食べ物が分かるようにする。

指標

- ・各学年において、年2回発達段階に応じた食に関する指導を行う。
- ・日々の給食において、食についての動画を視聴する。
- ・「食育月間」を6月、「給食週間」を1月に実施する。
- ・9のつく日に「給食残さないデー」を設定する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

下半期に向けての改善点

大阪市立五条小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ○「学校園における働き方改革推進」に掲げる、教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向5 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・児童が「心の天気」を毎日入力し、教員が確認することで、児童の現状把握に努める。 ・写真や図を用いたスライドの作り方・発表の仕方において、各学年の実態をふまえて系統立てた指導を進める。 ・前年度に行った効果的な実践を伝達し、今年度に生かすことができるようする。	
指標 ・学習用端末の使用率を平均85%以上にする。 ・指導計画をもとに各学年で1回以上、写真や図を用いたスライドを作つて学習する。 ・前年度の実践をまとめた引き継ぎ簿を作成する。	
取組内容②【基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・職員一人一人のスキル向上のためにGNPを中心に必要な研修を計画・実施する。 ・放課後の会議、打ち合わせをより効率的に行うために、事前の準備を確実に行う。	
指標 ・GNPを中心に校内研修の場を年6回以上実施する。 ・職員はおそらくとも19時に退勤する。また水曜日は18時とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	